

(2) トラップによる歩行性昆虫の採集

【目的】なまこ山に生息する歩行性昆虫をトラップを仕掛け捕獲する。歩行性昆虫の種類を調べ森林での役割を考える。また種構成からさまざまな環境の特徴を把握する。

【準備】プラスチックコップ、各種トラップ液、根掘り、軍手、マジック、サンプル袋、ピンセット、脱脂綿、タトウ紙

【方法】①各トラップ液を調整する。

- ・ 黒砂糖・酢・エタノールを水に混ぜ調合した物。・黒砂糖、酢、エタノールそれぞれ単独に溶かした物。ビール、カルピスなど

②野外にいくつか調査区を設定し、トラップを設置する。

- ・ 地面に根掘りで穴を掘りマジックでナンバリングしたプラスチックコップをコップが土の上でないまで埋め込む
- ・ トラップ液を下から5～10mm程度注入する。
- ・ 各調査区には10個以上設置すると良い。(設置する際には隣のコップまで1m以上は離すと良い。)



③1日以上放置し中身を回収する。

- ・ 内容物を地面にあげピンセットで虫をつまみ各調査区ごとにサンプル袋に回収する
- ・ 蛾の幼虫などやわらかいものは腐敗しやすいので、甲虫だけに絞るなど目的に応じて回収する物を選んで良い。
- ・ プラスチックコップは必ず持ち帰ること
- ・ 生きている物は標本にするものは毒瓶に入れ回収するが、同定したあと放しても良い。

④回収した昆虫を、水洗いし脱脂綿の上に並べ、手足を整え風乾させる。

⑤それぞれの採集品を同定し数を記録する。

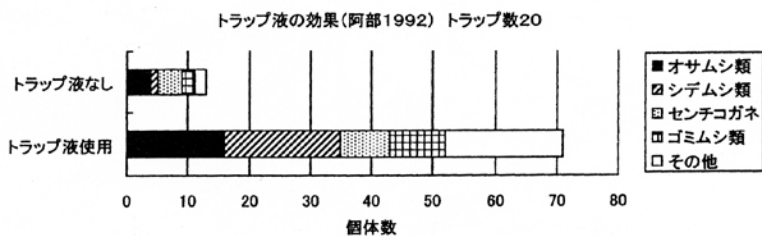
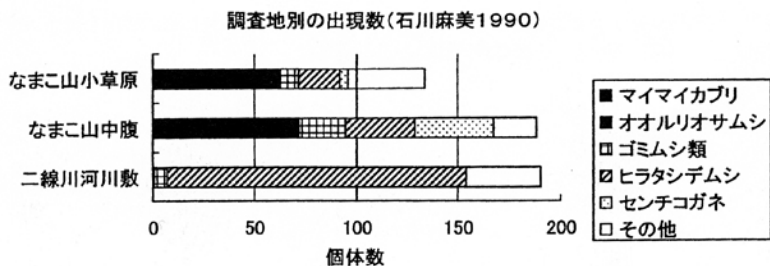
【整理】①採集された昆虫の生態を調べ、森林内でのはたらきや生態的地位についてまとめる。

②各調査区の種構成や個体数を集計、グラフ化し特徴を押さえる。

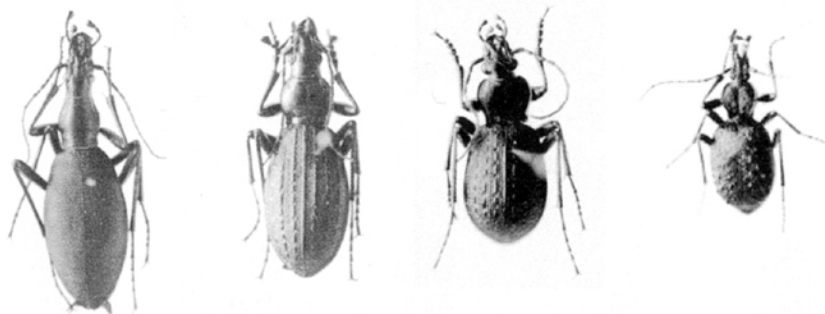
③各調査区の環境について比較考察する。(自然度などについて)

④標本をつくる。

参考データ



おもな歩行性昆虫



- オサムシ類 (左から エソマイマイカブリ・オオルリオサムシ・ヒメクロオサムシ・セダカオサムシ マイマイカブリ、オオルリオサムシは好んでカタツムリを補食、その他も肉食性)



ゴミムシ類
肉食、雑食性
多くの種類が
あり同定は困難



センチコガネ
動物の糞を食べる



シテムシ類
動物の死体を食べる

トラップで得られる主な歩行性昆虫（1）



エゾマイマイカブリ



クロナガオサムシ



エゾアカガネオサムシ



ヒメクロオサムシ



セダカオサムシ



ベニモンシテムシ



オオヒラタシテムシ



ハネカクシの仲間



ゴミムシの仲間



センチコガネ



オオゾウムシ



スジクワガタ



シテムシ幼虫



オサムシ幼虫

トラップで得られる歩行性昆虫（２）～オオルリオサムシ～



緑色タイプ
f. viridis



標準タイプ
standard

オオルリオサムシの様々な
色彩変異を示す。
なまこ山には
暗色タイプが
多い。

暗色タイプ
f. aereicollis



標高約500m
以上の高地に
すみわたる近
似種



南富良野町産 ヒメオオルリオサムシという
亜種に分けられることもある

アイヌキンオサムシ